

競技シーズンを戦い終えて

4年生 前田 賢 一



初めに2006年度はオーストラリア研修、全国大会出場に際し、翔友会から多額のご支援を頂き誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

～競技シーズンを振り返って～

2006年度は同志社大学航空部にとって、非常に意味のある年であったと思います。6年ぶりとなる全日本学生グライダー競技選手権大会への出場は私の入部した時期にはまるで考えられなかった成果です。個人的にも主将を務めたこと、ライセンスの取得、東海関西競技会で個人準優勝、オーストラリアでのフライト、そして全国大会出場と正直自分でも信じられないような1年となりました。

2006年5月初めの時点で私の経歴はソロ5発。東海関西競技会にライセンスを取得して、単座機で出場するには8月15日までにソロ30発を飛ばす必要がありました。学業との両立、梅雨、7月の試験期間を考えるとかなり厳しい状況でしたが、私の心は決まっていました。「今年、同志社チームとして絶対に東海関西競技会に単座機で出場して

やる！」この時点では全国大会は考えもしませんでした。同志社航空部は4年以上東海関西競技会に出場していなかったため、現役部員にとっては東海関西競技会ですら遠い存在だったのです。

ソロ発数を貯めるために5月の週末毎に木曾川通いをした結果、8月15日までにソロ30発を何とか飛ばすことができ、9月11日、実地試験が延期され続けていた当時4回生の中村兵馬先輩と共に、私は実地試験に合格することができました。そしてここに中村、前田の同志社チームが完成したのです。

そして迎えた第26回東海関西学生グライダー競技会(2006.11.4～11.12)。関関同立戦から続けて木曾川で競技できるのは、私たちにとって大きなアドバンテージだったと思います。中村、前田の同志社チームは団体での上位入賞、全国大会出場を目標としていました。

条件は大会期間全般を通して悪く、周回のない日が続きます。競技が大きく動いたのは大会4日目の11月8日。その日は中村が授業のため、選手は私一人でしたが、前日からの西高東低の気圧配置で上空には寒気が入り、好条件が期待されました。昼ごろから滞空する機体が出始め、次々と周回者が増えてゆきます。私も飛び立ちますが不運も重なりなかなか周回には至りません。周回できず落ち込んでいた私はクルーの仲間に励まされ、迎えた最終発航。ここで周回しなければ全国大会は遠のくだろうと思いつつ意を決して飛び立ちました。するとR/W西側でサーマルを発見し、750mまで上昇後、文化センターをクリア。再度サーマルを見つけ、宿舎クリア。当日3位のタイムで周回することができました。これが私の競技会初周回でした。サーマルの中で無我夢中に操縦

していたこと、「ゴール OK」の無線を聞いたときの爽快感を覚えています。一生忘れられないフライトとなるでしょう。

タイムは3位でしたが、上位2人が減点されたため、その時点で団体4位、個人1位となりました。この後は最終日までに立命選手が1ポイントゴールをしたのみで競技は終了し、同志社は団体4位、私は個人準優勝という結果で6年ぶりの全国大会出場権を獲得することができました。

全国大会出場が決まったものの私には大きな不安がありました。東海関西競技会で上位入賞することはできましたが、サーマリングの技量に全く自信が無く、全国大会で得点できるとは全く思えなかったのです。しかし、そのような状況の私に幸運が舞い降りました。翔友会のご支援でオーストラリアに派遣して頂けることになったのです。オーストラリアの環境については以前から聞いていましたが、学生時代に行けるなんて誰が想像できたでしょうか！私は幸せ者です。

去る2007年1月4日から1週間、4回生の中村と私はオーストラリアのナロマインでフライトを行ってきました。真夏の太陽エネルギーを受けて昼前になると積雲ができ始め、やがて小さな積雲が空一面に点在するようになります。グライダーパイロットにとっては居ても立ってもいられない光景です。サーマルの量が日本とは比較にならないくらい多く、5時間以上の滞空、数百kmや時には1000kmを越える距離飛行ができる環境がそこにはありました。サーマリングの技量に自信の無かった私にとって、サーマルの場数を踏めたことは非常に良かったと思います。その中で、センタリング方法などいろいろと試して勉強できたことが数多くありました。また5時間滞空や250km

のクロスカントリートレーニングを通して、新たなグライダーの魅力を発見することができました。

そして迎えた第47回全日本学生グライダー競技選手権大会(2007.3.4~11)。同立トラックで妻沼滑空場に着いた時は感慨深いものがありました。全国大会は私の入部時からの夢でしたが、入部時の部活状況では実現不可能と思っていました。その舞台に3回生で立つことができた嬉しさ、そして不安。それは選手、クルーの全員がそうだったと思います。大会期間中は非常に条件に恵まれ、8日間のうち6日間は周回者が出るという状況でしたが、その中で同志社は苦戦を強いられました。なかなかサーマルを掴むことができず、周回が出ている状況でも降りてきてしまうということが多々ありました。特に弱いサーマルの 때가そうです。全力は尽くしましたが、私は2周しかすることができず、団体13位、個人31位という結果に終わってしまいました。結果にはもちろん満足できません。しかし、私のフライト内容は東海関西競技会の時とは全く違っていました。オーストラリアで経験値を増やした分、より冷静で、考えたフライトをすることができたと思います。そして、全国大会のレベルを体験できたこと、24km、32kmのタスクでそれぞれ周回できたことは私にとって自信となりました。この悔しさをばねにして、自分の技量、知識をもっと磨き、次の全国大会で上位入賞を目指します。また現在は各学年にライセンス取得し、全国大会を目指せる人材が多くいます。4回生として合宿では一度飛び立てば帰ってこないような目標とされる先輩となり、下級生を競技フライトに引き込んでいきたいと考えています。

そして、これを読んだ現役の皆さん、競技フライトは自分の腕を試すことのできる場であり、練習フライトとは違う魅力にあふれています。周回できたときの達成感は言葉で言い表せません。競技に出ることをぜひ目標にしてください。

最後に、10月の関関同立戦、東海関西競技会そして全国大会と一緒に戦ってきた中村先輩、部員みんな、ありがとうございます。クルーの人たちが、グランドワークや私の頼みごとを嫌な顔ひとつせず引き受けてくれ、どれだけ助かったことでしょうか。そしていつも温かく見守ってくださるOBの方々。全国大会では多くの方から激励の言葉を頂き、また全国各地から応援に来ていただきました。また翔友会から多くの支援をしていただきました。ありがとうございます。あれ程多くのOBで賑わっていた大学は同志社だけだったのではないのでしょうか。私の入部時よりも明らかにOBと現役の距離は近づいたと思います。今後ともよろしく願います。

～全国大会を終えて思うこと～

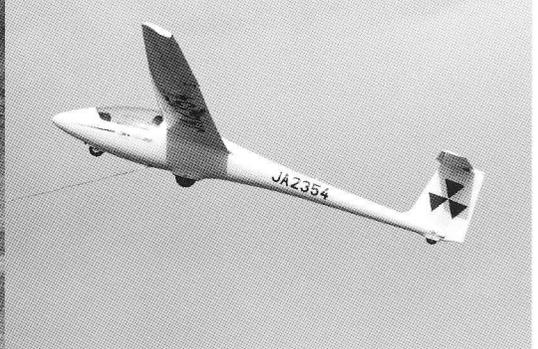
2006年度を締めくくる第47回全日本学生グライダー選手権大会は現役部員全員にとって初めての経験であり、出場自体に意味があったと思います。部員が少なかった時期に同志社航空部の歴史をつないで下さった先輩方、航空部立て直しの牽引役であった2003年度生、そして現役の頑張りが少し成果となって表れた結果だと思えます。しかし、団体13位という全国大会の結果は、今の同志社航空部の力相応のものだと思います。これは選手の負けた言い訳ではありません。全国大会は総力戦です。選手の育成、戦う集団としての結束力、部

内に蓄積された知識、1年間やってきた部活動のすべて、そして何よりグライダーに関する技量、知識を共に高め合おうとする部員の存在が重要だと思えました。同志社はまだまだ力不足です。全国大会に出場した大学の中で、部の総合力として「同志社の方が勝っている」と思った大学はどれくらいあったのでしょうか。

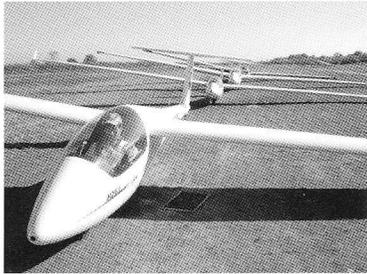
同志社航空部は4年前に入部した2003年度生から部員が増え始め、現在では30人弱程度の部活にまで成長することができました。私は同志社航空部に「航空部」としての知識の残されていない状況下で入部し、先輩、同期とともに部の立て直しに少しは貢献できたと自負しています。その状況下では部活運営、合宿運営を正常に行うための目標が、飛ぶことよりも優先されることがありました。しかし、現在の同志社航空部はこのレベルではありません。ある程度整備された部活環境の中で、次は何を目標にすべきでしょうか。

私は、まず東海関西内において総合力で1番になってほしいと思います。この目標を達成するために勝負する相手はいません。部員自身で部を高めていくしかありません。「今の部活をより良くするために何が必要だろうか」と部員一人一人が考え、その意見を全員で議論し行動していくことが必要です。私は前主将として部のことを考えてきました。しかし、1人で30人弱の部員の心を動かすのには限界があります。部員一人一人が考えることで向上心にあふれた集団をぜひ作ってほしいと思っています。

PHOTO GALLERY



全日本選手権 前田君(左)中村君(右)の離陸 写真提供 エアワークス 瀬尾 央氏



出発待つ間にイメージするのは…(前田君)

全日本選手権



関西・東海



同立戦



“さようなら航空部、そしてありがとう！”

1. 追い出しコンパ……

卒業生 久保貴士

昨日の夜、部活の追いコンがあった。家に帰ってきたけどまだ、気持ちの整理がつかない。

これで大学の大半を占めていた部活が終わって、部員とあまり会う機会が今までみたいにいかないと思うと、とても悲しい。

また、今まで誰にも言わず、自分をごまかしてきたことを今回の追いコンで口に出してから、本当に涙が止まらない。

今までならこのことを考えても少し後悔し、もし自分ができていたら…みたいな事を考えるだけで、終わってたのに一回、口に出し、みんなの前で涙を流してから、一気に気持ちが弱くなって、收拾がつかなくなっている。だから、今はめっちゃ複雑な気分。

追いコンでは、こんな気持ちだったから、ほんまに言いたいことはさわりだけしか言えてなかった。

同期の人たち、本当に4年間ありがとうございました。

みんながそれぞれ悩んでいるとき、俺は何もできなかった。ヒョウマが泣いたときも、試合続きで合宿所に缶詰してたときも、口でしか応援することができなかったし、なかっさんが泣いて、部活をやめるって言ったときもさすがに、以外で「っは!!」っとなって、でも、「ああ、どーしよー」ってなっただけやし…。

みんなから与えられたものはいっぱいあったけど俺はみんなに与えられた分返せてないと思う。ごめんなさい。それでも、こんな俺と、4年間付き合ってくれて本当にありがとう。

楽しかったです。

そして後輩、今まで4回のわがまま、変な行動、暴走 etc いろいろ付き合ってくれてありがとう。

最近、合宿に嬉々として行く姿を見ると寂しい反面、昔の合宿と違って楽しい合宿になってるんやーとすごくうれしかった。

でも、あるとき、何人かが飛ぶことをやめて、クルーになるって聞いたときはショックやった。俺と違って、飛べる資格・環境があるのに、それを自ら放棄して、クルーのみで活動するなんて、この部にいる意味ないやん！って思った。

でも、クルーとして合宿に参加している姿を見ると、それでもこいつらはこいつらなり、自分の役目をしっかりわかってるんや、俺もクルー参加してもよかったんじゃないか？って思うようになった。

特に3回生は付き合いが長く、深かった分いろんなことに巻き込んできたけど、ちゃんと自分たちのやるべきことをやってくれて、ほんまありがとう。3回生がちゃんとして、俺らの行動を緩和させてくれたからあとの、1、2回生がついてきたと思う。



2. 航空部へ…

卒業生 中田 有 砂

4年前の夏、「鳥人間コンテスト」という言葉に惹かれ友人と見に行った格納庫、大きなグライダーに感動して入部を決意。

部員は先輩2人、1年生7人。初合宿福井、朝6時起床、ランウエイに日差しが照り返し、昼間の温度は40度近い。1日中走り回って飛べたのは1回、あまりのしんどさに何度帰ろうと思ったことだろうか、しかし、不思議と数十分のフライトで疲れがとれる。まるで大きな空が私を包み込むように癒してくれる。

1年後、飛びたいだけでは通用しない合宿、先輩の前で他大学にお世話になりっぱなし、とてもショックだった。皆で毎日資料を探し、一致団結して航空部を盛り上げようと奮闘した。しかし、途切れた伝統を立て直すのはとても大変で、次第に数名が航空部を去って行った。

私も限界だった。友人が話してくれた。私も限

界。でも部活は続けよう。皆ですれば絶対出来る。その言葉で何度助けられたかわからない。部員の絆は日々固くなっていった。

その姿を見た後輩も「何か手伝えることがあれば言って下さい」と積極的に部活に関わってきてくれた。

2年後同志社単独合宿、30人近くなった航空部を見て、自分達がしてきた事は決して意味がない事ではなかったと確信出来た。

航空部は私をとっても成長させてくれた。そして何よりも大切な「仲間」を与えてくれた。

悩んでいる時、アドバイスをして下さった教官、伝統を教えて下さったOBの方々、本当に感謝しています。優しく見守って下さった先輩、つらい時暖かい言葉をくれた後輩、そして、何度も励まし助けてくれた同期のみんな、ありがとう。



3. 4年間続けてくれ…

卒業生 柳 飛沙 則

航空部との出会いは山口先生の機械工学概論でした。なんでも「鳥人間コンテストに挑戦するらしい」という話に期待を寄せ兵馬と電話でアポを取り、格納庫に行ってみると先輩らしき人が1人、車を分解していじっています。なんだか話と違うな、ということを感じましたが、そこには見たことのないグライダーというものが。後から来た西川さんに一通り説明して頂き、エンジンもないのによく飛べるな！と感激したのを覚えています。

その後とりあえずグライダーを体験してみようという事になり、土曜日に英語の授業が終わると兵馬と2人で車を走らせ大野滑空場へ行き体験搭乗をしました。凄い、こんな乗り物があるんだ。グライダーっていいかも。そうは思いましたが、やはり心は鳥人間でした。

そうこうしている間に、鳥人間の噂を聞きつけて10人以上の1回生が集まりました。でも鳥人間の実態は無く、一から始めなければならないことを知り、もしかしたら鳥人間は人集めのためだけだったのではと勘付く一方、学業・バイトとの両立、グライダーとの付き合い方に悩みました。これは皆が思っていたことだと思います。他大学の先輩や教官に怒られながら合宿をし、なぜもっと飛ばないんだと言われるのも辛かったです。しかしこれで諦めるわけにもいきません。肩身の狭い思いをしながらも、格納庫の一部を鳥人間スペースとして借り、機体設計、PR 文作成、OBさんへのプレゼンテーション、資金集め、材料集め、機体製作と初めて経験する事ばかりでしたが、8倍もの倍率を勝ち抜いて鳥人間コンテストに出場することが出来ました。結果は今ひとつでしたが、あの達成感は一生涯忘れることはありません。

ここで、これまでグライダーのことをまるで

荷物かのように綴ってきましたが、決してそうではなかったことをここでお断りしておきます。確かに最初は、お金は掛かるは、合宿は辛いはで、しんどかったのですが、練習するにつれて奥が物凄く深いことを知り興味が増していきました。学業と鳥人間を優先したために発数は伸びませんが、2回生の新人戦、初めて競技フライトを経験し、勝負するということを肌で感じもっと上手になりたいと思いました。しかし他大学の航空部員との気持ちのギャップ、遅すぎるスタートで航空部のグライダー生活としては後悔の残る結果となってしまいました。もっと早くにグライダーを真剣に始めていたかったです。

入部当初、墜落しかけていた航空部を思えば、今の活況ぶりには感慨深いものがあります。前田改め、賢さんをはじめ、あやひと、ゆきちゃん、山本、かなえちゃん、かんじら新4回生にはろくにグライダーの知識を教えてあげられず苦勞させたことを本当に申し訳なく思います。本当に航空部を立て直してくれたのは彼らの情熱があつたものでした。重田、小山、栗山、本田、淳さん、藤田、そして福本ら新3回生、当初は仲が悪そうだったけど、最近はめっきりそんなこともなくなってきましたね。皆随分しっかりとしてきたので、安心して航空部を任せられます。どうぞよろしく。岩崎さん、入江っち、ゆかりん、ちゃだ、そしてこてつら新2回生、同回生はとても大事な仲間です。その雰囲気大切に、皆仲良く、苦しい時や悩んだ時は助け合って、共に航空部を盛り上げてください。そして縁あって航空部に入部し、これを読んでくれている1回生へ、航空部は4年間続けてください。必ず最後には続けて良かったと思えること間違いのない素晴らしい部です。

久保っち、飛べないと分かってからも航空部を支えてくれてありがとう。体育会の長として、かなり頑張っていましたね。凄くいいキャラで欠かせない存在でした。

坂本さん、普段は物静かだけれど、しゃべり出すと止まらなくなるのが面白かったです。学校に家が近く、色んな用事を任せてしまっておめんなさい。今度ゆっくり大人の酒を飲みましょう。

中田ねえさん、要所要所で突っ込みどころ満載なところが、航空部生活に華(花!?)を添えてくれました。一緒に過ごせて楽しかったです。実は…なんでもないです。本当に(笑)ありがとう。

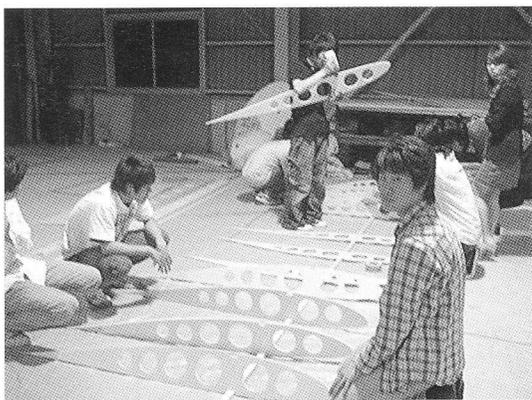
そして兵馬、様々な仕事やプレッシャーを押し付けて悪かった。しんどくても、文句を全然言わ

ず色んな事を黙々とこなして1人で吸収し、後輩へ伝え、航空部を立て直すのに尽力してくれたことに凄く感謝しています。ありがとう。

最後になりましたが、山口先生、森川監督、政会長をはじめとする翔友会の皆様、4年間の航空部生活、そして鳥人間コンテストへのご理解とご支援ありがとうございました。卒部を迎え芽生えてきました航空部を見守りたいという気持ちで、これからはOBの立場から応援したいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

航空部で学んだことは計り知れません。自分を大きく羽ばたかせてくれた航空部。

ありがとう同志社大学体育会航空部!!!



“私のこの1年”

1. One for All, All for One.

3年生 主将 福本 貴則

入部をし、早2年が経ちました。気付けばもう3回生です。

思い返せば1回生の初めての合宿は他大学とは遅れており、8月の同立戦でした。競技であったために2発しか飛ばなかったのを覚えています。夏の暑い中、何も知らなかった僕たちは、ひたすら福井空港を走りました。でも、全く苦ではなかった。とにかく先輩たちの力になりたい！元気や体力だけは立命に負けたくないと思ったからです。競技が終わり、先輩たちから「ありがとう」と言われたときは本当に嬉しかった。発数の少ない僕たちはできるだけ早くソロに出られるように1発を大切にしていきました。それから、月日が経ち2回生でソロに出ることができました。グライダーへの楽しい世界に第一歩踏み出したと思うととても嬉しい気持ちでいっぱいです。

こうして今の自分があるのも先輩方が勧誘してくださり、そして優しく接してくれたからです。

本当に感謝しています。

主将をする決意ができたのも「お前ならできる」と言われ、創部以来積み上げられてきた伝統ある同志社航空部を守りたいと決意したからです。

今年一年、主将としての目標は「One for All, All for One.」を忘れずに！仲間と部を大切にしていゆき、とにかく、大事な情報をいち早く皆に知らせることと、同志社航空部がより上を目指せるように部や各人のレベルを高めていくことです。フライト面での目標は、より多くの上昇気流をつかまえ、より高い空を目指し競技に向けて技量を伸ばしてゆきます。しかし、何が起るかわからない空なので無理はせず、常に安全の事を考え、自分で操縦する感動と喜びを得てゆきます。

最後に全国大会優勝という目標を忘れることなく、部員が一つになり力をあわせて、空を飛び続けてゆきます。



2. 航空部での3年

3年生 主務 岩井 淳

早いものでもう3回生、同志社大学に入学してから丸2年が経ち、同時に航空部生活も3年目に突入しました。滑空経歴もだいぶ揃ってきており、後はいかに自分が努力して早くライセンスを取得するかが今後の課題です。

翔友の原稿依頼をいただいた際、何を書こうか考えていたのですが、せっかくのいい機会だし大学生活もちょうど半分が終わったということで、区切りとして入部から現在に至るまでを回想してみようと思います。

2005年の春、私は大学受験が終わり1年間の浪人生活から解放はされたものの、地元東京の大学に失敗し、複雑な気持ちを抱えながらまったく未知の土地である京都で、これから始まる同志社大学での大学生活に期待と不安を抱いていました。そんな中で何気なく見ていた大学案内に航空部の文字を見つけ、もともと飛行機が好きだった私は強く興味を惹かれたのを覚えています。

そして迎えた入学式、大量にもらったピラの中に航空部のピラを見つけました。私の所属している政策学部は、度々ブログ上でも触れていますが4年間今出川キャンパスで過ごす学部で、入学式こそ京田辺でしたが翌日からは全ての授業が今出川で行われます。当然各クラブやサークルは京田辺での新人勧誘に力を入れており、当時は今出川での新人勧誘をしている団体はかなり少なく、航空部に至っては今出川での勧誘は行っていませんでした。

そこで私はピラに書かれていた番号に電話し、入学式翌日の4月2日に京田辺へ足を運びました。その後は体験搭乗などを経て、すぐに入部に至りました。しかし入部してからは事故の影響などで合宿が延期になったり、初合宿が同立戦というこ

ともあってまったく飛べず、1回生の終わり頃には総発数20発ほどでした。

2回生になってからは飛べなかった分を取り返すつもりで、時間の許す限り合宿に参加し、10月の関関同立戦で初ソロ、次の同志社EVE合宿でセカンド・サードソロに出ることができ、2回生最後に外人参加した合宿ではASK21ソロにも出ることができました。結局2回生を終わった現時点で総発数が124発、ソロ10発で総飛行時間は17時間3分です。

競技会の経験はまだ同立戦と新人戦しかなく、結果も今一でしたが、周回などを競う本来のグライダー競技にはまだ出場経験がないので、先輩などから話を聞いて、自らの経験に生かして生きたいと思います。これからは自らの置かれている立場をしっかりと把握し、部のために貢献できるように頑張っていきたいと思います。



3. 私の1年

2年生 入江裕子

「知ってる！空飛んでる子やろ??」

バイト先の友人が、私の学部の友人と偶然知り合い、私のことを話したときに出たという一節。「航空部」という言葉が自分の生活の一部になって早くも一年が経ちました。

私は高三の受験の時から、大学に入ったら何か部活かサークルに入りたいとずっと思っていました。そこで得られるであろう友達や先輩後輩、四年間何かをやり遂げたという自信は、一生モノだと考えたからです。航空部を選んだのはほとんど直感だったと思います。一年経ったいま、入学までに想像していたよりずっと素敵な仲間を本当にたくさん得ることが出来ました。そしてもう少しすれば、また後輩という新しい仲間が増えます。

私は一回生の中では一番合宿参加数が多く、他の大学の合宿にも積極的に外人参加してきました。やはり他大学から学ぶ点が多いです。何事においても対比して見ることはとても勉強になります。合宿全体としてもそうですが、自分たちと他大学の一回生、自分とライバル。フライトにおいては勿論、グランドワークにおいても私はまだまだだなあといつも感じさせられます。一緒に頑張ろうと励まし合ったり、負けているのが悔しくてがむ



しゃらにランウェイ走ったり。きっと部活以外ではこんな気持ちにならないでしょう。そんな仲間が同志社には勿論、他の大学にもいるからこそ、私は一人でも外人参加出来るのだと思います。そして、「おまえまた木曾川来とるんか。」なんて暖かい？言葉を掛けてくださる教官方のおかげだと思います。

総発数63発。ソロ前にして一年間が終わりました。ソロに出ている同期もどんどん増えてきています。正直焦る気持ちが大きいです。二月の合宿ではこの焦りに邪魔をされ、自分の納得のいくフライトが出来ないという結果になってしまいました。操縦には気持ちのブレが全て出ると痛感しました。そのまま陸送を経て、三月、全国大会。初めての妻沼では全てが心細く、選手のお二人に逆に励まされていました。もっともっと頼りになる後輩になりたいと強く思いました。

次の五月合宿で初ソロを目指しています。ソロに出るということがどういうことか、後輩にも見てもらいたいです。目前の課題はまだまだ多いですが、焦らず冷静に、ひとつずつクリアしていきたいと思います。一つ一つのフライトが、ソロに、ライセンスにつながっていく。その意識を持って学んで行きたいです。そしてオーストラリアにも行けたら良いな。

書いていて、とっっても飛びたくなりました。この気持ちを大事にこれからも頑張ります！

4. この1年間

2年生 茶田 紘史

私が同志社航空部に入部して、早くも1年が経過しようとしています。思い返せばこの1年間は、様々な行事、合宿、大会などがあり、かなり充実した年でした。

まず初めに、4月に体験搭乗があり、私はその時、人生で初めてグライダーに乗りました。

自分の乗る順番が回ってくるまでは、興奮でいっぱいでしたが、いざグライダーに乗ってみると、「これからどうなるのか?」という不安に苛まれました。そして、エアボーンと同時に、その不安は最高潮に達しました。なぜかと言いますと、グライダーが取る急な上昇角に驚いたからです。私はそれまで、旅客機などに数十回乗ったことがありましたが、45°近い角度で上がっていく飛行機に乗ったのは、その時が生まれて初めてでした。そうこうしているうちに、グライダーは、滑空姿勢に入り、私もようやく落ち着きを取り戻して、グライダーから見える180°パノラマの景色に酔いしれていました。

それから1ヶ月が経ち、私が航空部員として合宿に参加する日がやってきました。とうとう待ちこがれていた日がやってきたのです。初合宿となった同志社・名工合宿では、授業の関係で結局2日ほどしか参加できませんでしたが、先輩から地上での作業(索つけ・バラ側での作業・機外点検・翼出し)や、宿当の仕事など、合宿をやる上ではかかせない仕事について教えてもらいました。また、他にもグライダーの組みばらし、セームアップなどをはじめとして、他にも多々、作業があり、グライダーを飛ばすには、かなりの地上作業が必要であるということをその合宿で初めて知りました。

6月には、福井空港で合宿があり、初めて飛行機曳航を経験しました。ウインチ曳航と違い、離脱するまでの間、曳航機を追ってゆくので、だんだん自分たちの乗っているグライダーが、前で必死に逃れようとしている曳航機を追い回しているかのような感覚に襲われました。不思議なものです。

そのおよそ2ヶ月後には、同立戦が行われました(立命館の学生は口を揃えて立同戦と言いついておりましたが…)。真夏に行われた大会だったので、競技中のランウェイはとても暑く、上空からの強烈な直射日光が肌をじりじりと焼きつけ、かなり大変でした。そのような条件下でも、『優勝』という二文字を目指して、同志社のために、7日間戦い貫かれた先輩方は、いつもより、より一層輝かしく見えたものでした。

その後には、9月合宿、関関同立戦、東海・関西の大会、2月合宿があり、そこでは次々と先輩方がソロに出られました。また、東海・関西の大会では、前田さんが準優勝されたり、同志社チームが久々の全国大会出場を決めたりと、後半期では、先輩方の活躍が目立ち、私たち1回生は、かなりの刺激を受けました。

先輩方の活躍に続けるよう、また、伝統ある同志社航空部の名を汚さぬよう、今後はより多くの経験を積んで、早くソロに出られるように努力していきたいと思っています。OBの方々、そして先輩方には今後ともより一層のご指導をよろしくお願いいたします。

5. この1年

2年生 副将 小寺 亮

思えば、あっという間の1年でした。去年の新生歓迎会の時、同志社大学に入学してから、大学生活の半分以上の時間を使うであろうサークル活動を、どれにしようか迷っている僕がいました。

テニス、フットサル、バスケット…色々なスポーツのサークルを転々としてきましたが、自分の中で「これだっ!」と思う決定的な要素や魅力が無く、なぜか春爛漫の世の中で僕だけが虚しさを感じていました。

しかし、ひょんなことから、ある1枚のピラが僕の視線を完全に奪ったのです。水色の空を背景に、爽やかに描かれている白いグライダー。そう、それこそが僕と航空部の初めての出会いでした。

グライダーに乗れるというただ一つの目的のためだけに総てがまかなわれると思っていた僕でしたが、実際は違っていました。

滑空場の使用規則や運営方法、機体に付属されている書類やノートへの記入、無線やピストからの指示、宿舎のルールや近隣住民への配慮、合宿を成立させるためのそれぞれの係りの仕事、またご指導頂く教官への対応など…ありとあらゆる複雑な規則やルールが僕の前を駆け抜けて行きました。自分が今まで生きてきた中で経験したことの無い世界なので、やはり最初の頃は失敗ばかりを繰り返し、先輩に迷惑をかけ、それに対する後悔と反省の連続でした。

しかし、半年以上が経過したある時、自分の中で大きな変化がありました。それは、丁度翼出しや索付けなどの認定をもらい、独り立ちが出来た頃でもあります。その時、これら雑多な決め事が驚くことに苦ではなくなっていたのです。それどころか、練習を行ってゆく過程で最良で効率がよ

く、尚且つ最大限の安全を考慮した運営方法なのだ、考えが180度旋回してしまったのです。こんな革命的な変化が起きた途端、自分の中に余裕が出来たのでしょうか、少し周りをゆっくりと見渡せるくらいの気概が備わりました。しかも、それは同時に自分のフライトにも応用することが出来た気がします。

2007年3月現在、発数は42発と先輩方に比べると天と地ほどの差です。ですが、フライト中少し空を眺め、操縦桿を握っている自分の手の汗を感じながら、黙々とそれだけで全神経の感覚を研ぎ澄ましながらか課目をこなしてゆく作業は、地上で色んな悩みを抱えて煩悩にまみれている僕の頭の中を洗い流してくれます。

最後ですが、全国大会と先日の追い出しコンパでの卒業生の涙の言葉、本当に感動しました。ほんの一步でも先輩達に近づきたいと切実に思いました。

まだまだ未熟ですが、これから始まる1年は副主将という立場で歴史ある同志社大学航空部に尽力してゆきたいです。

6. 航空部で過ごした1年

2年生 岩崎美穂

私が航空部に入ったのは、入学式当日の山口先生の言葉がきっかけです。それは大学では勉強だけでなく何かに挑戦し、大いに楽しみなさいというものでした。そして先生は最後にさりげなく航空部の宣伝を付け加えました。私は映画「魔女の宅急便」が大好きで、空を飛ぶことに憧れていたもので、これしかない!!と思い入部を決意しました。

あれからもう1年が過ぎようとしています。未だに先輩の背中を追ってばかりで、係りの仕事も満足に出来ませんが、この1年で私は精神的にたくましくなったと思います。

高校生の時は親に甘えてばかりで、身の回りのことも全て任せ切りでした。航空部に入ってからは、合宿を重ね、集団生活にも溶け込めるようになりました。入部当初は、宿舎のべちゃんこな布団やカビが生えたお風呂、塩の入った麦茶にいちいち悲鳴を上げていましたが、今となってはすっかりお馴染み。これがあってこそその合宿と感じています。

フライト面も、離陸時の加速感に絶叫し、着陸時のみるみる高度が下がる恐怖に息が止まっていた頃と比べたら、最近では随分と落ち着き、やはりたくましくなったと思います。まだまだ場周判断が甘く教官の助けを借りながらのフライトが続いていますが、今年の夏、初ソロに出られる様に努力していきます!!

この一年で一番心に残っているのは、初めて他大の合宿に外人参加したときのフライトです。合宿の雰囲気の違いや、初めて会う他大生や教官にとっても戸惑っていました。その日は直線滑空すらうまくいかず、1日中教官に怒られ気分はブルー。ランウェイで泣くのはやめようと必死に涙をこらえていました。

日も落ちかかり、やっと今日の訓練が終わると

ホッとしていた矢先、搭乗の順番が回ってきました。あの時の衝撃といったら…また怒られるのかと思うと、本当に逃げ出したかったです。そんな気持ちでその日最後のフライトが始まりました。しかし、その時上空で待っていたのは空一面を真っ赤に染めた夕日でした。地平線が霞み、視界いっぱいのグラデーションに鳥肌がたったのを覚えています。その日の疲れも、憂鬱な気分も全て空が吸い込んでくれたようでした。訓練が終わる頃には、もう一度、今すぐ飛びたい気持ちでいっぱいになりました。忘れかけていたグライダーの魅力を再発見した瞬間だったと思います。今後同じ様なことがあってもフライトを楽しむことを忘れないようにしたいです。

暑い暑い夏の合宿、2月の寒さの中での合宿、楽しいことばかりではなかったけれど、無事に1年が過ぎ、ここまで成長できたのはこの部にかかわる全ての人あってこそだと心の底から思っています。ランウェイワークに始まり、係の養成などつきっきりで仕事を教えてもらい、先輩には感謝の気持ちでいっぱいです。先日の追いコンでの4回生の様に、同学年5人の仲間と共に、胸を張って部を卒業することが出来るように、精一杯活動していきたいです。



ホームページにアクセスしよう!!

Doshisha Aviation Club 同志社大学学生会航空部

航空部とはグライダーに乗って自由に空を飛ぶクラブです。皆さん、一度は鳥になって空を飛びたいと思ったことがあるはずです。鳥になることは不可能だけど、空を自由に飛びまわるとはかのかうです!!グライダーを自由に操縦して、一緒にこの大空を飛びまわろう!!!!

活動内容
部員紹介
予定
OBさまへ

機体紹介
掲示板
Gallery
LINK

活動日誌(ブログ)

第47回全日本学生グライダー競技選手権大会
応援ありがとうございました。

URL : <http://www.donet.gr.jp/~aviation/>

2003年発行の本誌でも紹介しましたが、航空部のホームページがあり、担当部員がこまめに更新しています。是非アクセスしてみてください。部員の動きや、合宿の状況が手に取るように分かり、結構楽しいです。また、OB宛ての色々な連絡・案内も最新の情報が得られます。

掲示板を利用して、現役への激励や、アドバイスを書き込んでやって下さい。現役とOBが身近に繋がれるので、彼等も励みになると思います。